

# 保 健 体 育

## 第1節 概 要

オリンピック以後、急に国民の間に体力についての認識が高まり、各種の体力づくり運動が展開されてきた。昭和41年度は体力づくりを積極的に実践に移す年であった。

保健体育課は「スポーツの振興と体位・体力の向上」を努力目標として、それぞれ、保健、体育、給食の分野で密接な連けいをとりながら総合的に施策をすすめ、二百万県民の体位・体力の向上に、この一年間努力を重ねて、大きな成果を収め得た。その概要は次のとおり。

### 1 学校体育の振興について

本県の児童・生徒の体位・体力は全国平均を下回っているので保健・体育・給食の総合的施策をすすめたが、学校体育指導者の資質向上のため、各種実技の講習会、体育研究校の指定、研究発表会等を開催して指導の充実をはかった。

### 2 競技力の向上について

国体の成績は26位に終わったが、各選手の記録・内容は大いに向上している。アジア大会において唯一の世界新記録を出した重量挙げの大内仁選手、メキシコオリンピック候補となった馬術の佐藤伝一選手、札幌オリンピック候補に選ばれた猪苗代高校の渡部絹夫君外6名の中学選手等目ざましいものがある。

又、本年度県体において146のタイ記録、新記録の誕生をみたことは、本県の各競技の躍進向上を物語るものである。

### 3 社会体育の振興について

スポーツ少年団活動の促進、スポーツ教室開設の促進等につとめた。又、ユースホステル会員の増員、サイクリング協会の発足等野外活動の普及につとめ、一般青少年を対象とした、社会体育の振興をはかった。

又、本年より国民の祝日となった体育の日には県下51市町村6万名の参加をもって各種の行事が催され、体育の日制定の趣旨が生かされた。

### 4 県営体育館付属合宿所の新設について

昭和39年度に完成した県営体育館は、本県スポーツの殿堂として、スポーツの振興に貢献しているが、更にその効果的活用をはかるため、体育館北隣に鉄筋3階100名収容の合宿所を3月末完成した。内部施設を整備のうえ6月より開所するので、本県の競技力向上に大きな期待がかけられている。

### 5 水泳プールの建設について

41年度国庫補助による水泳プールは小学校17、中学校7、市町村民用3、の新設をみた。その他市独自の建設3、を加えて県下のプールの総数は171となったがその充実度はいまだ不十分であるので、さらに充実するよう努力したい。

## 6 学校給食実施計画の策定

本県の学校給食の概況は、小学校・中学校ともにミルク給食は殆んど実施しているが、完全給食は小学校が80%、中学校が20%台である。今後の学校給食普及上の課題として、昨年度に引続き、へき地給食の促進と中学校給食の育成が大きな課題である。

このため本県の長期総合教育計画においても、国の計画方針を考慮し、本県の実態に即して、

- (1) 小学校においてはへき地、平地とも45年度まで完全給食を。
- (2) 中学校は、へき地は45年度まで、平地は50年度まで、それぞれ完全給食を。

全校に実施できるよう、強力に推進していく計画が樹立された。

## 7 学校給食衛生管理の強化

41年度は、全国的にも、学校給食による赤痢・食中毒等、事故の多発をみたが、本県においても田村郡三春町立沢石小学校外数件の給食に起因すると思われる事故が発生しているので、県厚生部とも連絡を密にし、適切な指示により指導を行なったため事故を最少限度に食い止めることができたことは幸いであった。

## 8 学校環境衛生の維持改善

法により学校薬剤師が設置されたが、その職務執行の基準がなかった。40年度に国から「学校環境衛生の解説」がされたのでその趣旨徹底をはかるとともに、学校環境衛生の維持改善をはかる基本的なことである環境衛生検査を各学校で実施するために、学校薬剤師の実務講習会を開催し、その強化をはかった。

## 9 へき地学校保健の強化

本県学校保健の隘路の一つは、へき地地区の学校保健の振興にあり、この打撃策を講ずることは重要な意義をもつものである。それでへき地区の学校へ専門医を送り込み健康診断と簡単な診療を実施し、へき地地区の児童・生徒の健康状態の把握とへき地学校の学校保健のあり方を研究した。へき地教育の振興をはかるには、へき地地区の学校保健の解決が学習展開以前の重要な問題の一つである。

## 10 学校病対策の強化

本県児童・生徒が罹患している疾病異状は、数多くあるがそのうちで、特にむし歯・近視が一般的に問題となるものであるが、一部の地区ではまだ寄生虫やトラホームが問題とななければならない。これらの学校病対策として県内16カ所で学校病予防講習会を開催し、関係者の理解を深めて、その予防対策の強化をはかった。